

連合福島第32回定期大会 10/25(金)

台風19号被害からの復旧支援に、力を惜しまない決意を表明 ～ 2年間の運動方針を含め、全議案を決定する～



連合福島の第32回定期大会は、10月25日福島市の福島グリーンパレスで開催され、役員・代議員など約200名が出席した。10月12日の台風19号による甚大な災害で多くの方が被災し、構成組織組合員4名が亡くなられた。大会の冒頭で出席者全員が黙祷を捧げた。今野泰連合福島会長は挨拶の冒頭『台風19号で亡くなられた方々に哀悼の意を表し、被災された方々に対しお見舞いを申し上げたい。連合福島は、加盟組織の被害状況を構成組織を通じて調査し、福島県、

福島労働局、連合本部と情報を共有し、それぞれに対し復旧にむけた支援を求めてきた。1日も早い復旧を心から願い、ナショナルセンターとして、力のおよぶ限り努力・支援を惜しまない』と決意を表明し、『震災以降、福島県は企業の撤退や移転が加速し、全国1位の人口流出や風評被害など、その対策は行政や県・自治体の主要課題となっていて、自治体の存続や行政サービスの維持に危機感を強めている。結成30年を迎えた連合福島は、大震災をきっかけに掲げた「オールふくしま」のもと、制度政策要求を活かし当時の教訓をしっかりと活かしていく。労働組合は地域のステークホルダーとして、多種多様な関係性に対応できるポテンシャルを持っており、働く者の尊厳と人権を守れるのは労働組合しかないということを再認識したい。また、先の参議院議員選挙や地方議員選挙では投票率が過去最低を更新している。定数割れ、無投票選挙など、政治への信頼・

期待は大きく揺らぎ、2012年の民主党政権崩壊後、旧民主党勢力の再編・分裂が繰り返されてきた。脆弱な野党体制をしり目に、首相は安倍一強をより強めている。将来の社会を展望する上で、「政治」は避けて通ることができない。1998年の参議院選挙では、「福島型大連合」が中心的な役割を担い、現在は「五者協議会」として引継がれている。政治家自らが有権者の信頼と期待、支持率回復への努力は当然だが、連合福島がそのバロメーターとしての役割



来賓挨拶・山根木晴久
連合総合運動推進局長

を担い、発言力を増すためには、組織力や運動量を増すことが不可欠であり、今次県議選で21人の予定候補の必獲に向け、連合福島への結集と、積極果敢な取り組みをお願いしたい』と挨拶した。また、来賓として連合本部・山根木晴久総合運動推進局長や井出孝利福島県副知事など多くのご来賓の皆様からお祝いの言葉を頂いた。経過報告については執行部報告を賛成多数で了承し、第1号議案・2020年～2021年度の運動方針(案)には、自治労・澤田代議員、電機連合・鈴木代議員からの意見・要望があり、執行部の見解を以て賛成多数で決定された。第2号議案・第25回参議院議員選挙のまとめ(案)、第3号議案・第19回福島県議会議員選挙および各自治体議員選挙の対応(案)も賛成多数で決定し、第4号議案・規約・規則・規程の一部改正(案)は、「規約改正」の記名投票の結果を含め、満場一致で決定した。第5号議案の役員を選出は、今野泰会長はじめ向こう2年間の新体制が確認され、最後に、「すべての働く者のための労働運動を力強く展開し、政策の実現と労働条件の改善、真の多様性が根付く職場・社会の実現に向けて「福島の復興・創生」に全力を尽くそう』とした大会宣言が採択された後、今野会長のガンパロー三唱をもって第32回定期大会を閉会した。



挨拶する今野泰
連合福島会長



熱心に傾聴する大会代議員の皆さん



今野会長の発声で”ガンパロー三唱”